

```

1 Sub オブジェクトや変数の種類()
2   Dim myInteger As Integer
3   Dim myVariant As Variant
4   Dim myObject As Object
5   MsgBox TypeName(myInteger)
6   MsgBox TypeName(myVariant)
7   myVariant = "ExcelVBA"
8   MsgBox TypeName(myVariant)
9   MsgBox TypeName(myObject)
10  Set myObject = Range("A1")
11  MsgBox TypeName(myObject)
12 End Sub

```

- 1 [オブジェクトや変数の種類] というマクロを記述する
- 2 整数型の変数myIntegerを宣言する
- 3 バリエーション型の変数myVariantを宣言する
- 4 オブジェクト型の変数myObjectを宣言する
- 5 変数myIntegerの種類を調べて、メッセージで表示する
- 6 なにも格納されていない変数myVariantの種類を調べて、メッセージで表示する
- 7 変数myVariantに「ExcelVBA」という文字列を格納する
- 8 変数myVariantの種類を調べて、メッセージで表示する
- 9 なにも格納されていないオブジェクト変数myObjectの種類を調べて、メッセージで表示する
- 10 オブジェクト変数myObjectにセルA1を格納する
- 11 オブジェクト変数myObjectの種類を調べて、メッセージで表示する
- 12 マクロの記述を終了する

オブジェクトや変数に対するTypeName関数の戻り値を確認したい

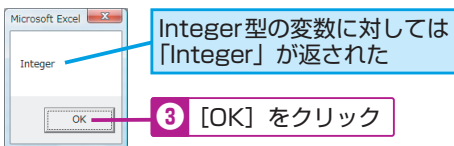
1 VBEを起動し、コードを入力

参照 1 VBAを使用してマクロを作成するには……P.93



2 入力したマクロを実行

参照 1 マクロを実行するには……P.54



- 1 マクロの基礎知識
 - 2 VBAの基礎知識
 - 3 プログラミングの基礎知識
 - 4 セルの操作
 - 5 ワークシートの操作
 - 6 Excelファイルの操作
 - 7 高度なファイルの操作
 - 8 ウィンドウの操作
 - 9 リストのデータ操作
 - 10 印刷
 - 11 図形の操作
 - 12 グラフの操作
 - 13 コントロールの使用
 - 14 外部アプリケーションの操作
 - 15 VBA関数
 - 16 そのほかの操作
- 付録